

## 平成6年度目録システム会講習会の日程変更

学術情報センターの電子計算機棟(西千葉地区)の竣工にあわせ、講習室(大塚地区)の改修工事を実施します。このため、先に「平成6年度研修事業要綱」でお知らせしました目録システム講習会の日程を次のように一部変更します。

受講申込を予定されていた皆様には大変ご迷惑をおかけいたしますが、事情ご賢察の上、お申込みに際してご注意願います。

第7回 平成7年2月13日(月)～2月17日(金)を中止する  
代わりに、平成6年11月14日(月)～11月18日(金)に臨時回を開催します。

臨時回の申込み締切日は平成6年9月30日(金)とします。臨時回にお申込みの場合には、「研修事業要綱」の推薦調書の備考欄に『臨時回希望』とお書きください。

## 平成6年度目録システム機能追加予定項目

今年度の目録システムに対する機能追加では、以下の項目を予定しています。

### 1. 著者名典拠参照MARCの導入

国立国会図書館作成の著者名典拠ファイルを、目録システムにおける参照MARCとして利用できるようにします。国立国会図書館によると、今回の提供範囲は個人名についてのみですが、今後は団体名についても提供する予定とのことです。データの更新頻度は、3ヶ月に1回で、1回あたりおよそ5000件のデータの追加・修正が行われる予定になっています。

なお、これに伴い、従来JAPAN MARCからデータを抽出して作成してきたJP著者名典拠参照MARCは運用を中止する予定にしています。

### 2. 雑誌誌名変遷マップの表示画面での作成・修正日付の表示

従来表示されていなかった誌名変遷マップの作成日付(CRTDT)及び最終更新日付(RNWDT)を、詳細表示画面で表示するよう変更します。これによって誌名変遷マップの更新状況を簡単に把握することが可能になります。

## 目録情報に関する質問書から(図書・雑誌)

### 1. 洋図書の親書誌のタイトルの情報源について

洋図書のシリーズタイトルはタイトルページその他、副タイトルページ、シリーズタイトルページなど、厳密な意味ではタイトルページそのものではないが、タイトルページに準じると思われる箇所に表示されている場合が多く見受けられ、これらを洋図書の親書誌のタイトルの情報源に含めていいのかどうかという質問がしばしば寄せられています。

「オンライン・システムニュースレター抜刷集」(1992年6月)p. 41～42の「集合書誌単位の規定の情報源」の項には、「ただし、洋図書の親書誌レコードの標題に関しては、標題紙(標題紙裏を含む)、表紙、および奥付による」とありますが、この文の意図が必ずしも明確ではないために、混乱を生じてしまっているようです。そこで、ここでは改めて洋図書の親書誌のタイトルの情報源について、より明確な指針を示すことにします。

「抜刷集」では先の文の直前に、親書誌のタイトルの情報源を「子書誌レコードの同一事項の規定の情報源に準ずる」としています。親書誌レコードも「書誌」である点では子書誌レコードと同じですから、「タイトル」の情報源は子書誌レコードに準ずるとしているわけです。ところが、親書誌レコードは「書誌」である一方、「シリーズ」の「典拠」の役割も果たしています。親書誌レコードの「タイトル」は、同時に子書誌レコードの「シリーズタイトル」でもあり、子書誌とリンクされることにより、同一シリーズをまとめるという機能を果たします。シリーズタイトルが、「子書誌レコードの同一事項の規定の情報源」つまり「タイトル」の情報源以外の箇所に表示されていた場合でも、シリーズであることには変わりはありません。その場合でも、同一シリーズをまとめるために、親書誌を作成し子書誌とリンクすることが必要となります。

ところで、NCRではタイトルの記述の情報源を「標題紙(標題紙裏を含む)、奥付、背、表紙」としており、和図書のシリーズタイトルもほとんどの場合、これらのいずれかに表示されていますので、「子書誌レコードの同一事項の規定の情報源に準ずる」という規定でも、シリーズタイトルが存在するにもかかわらず親書誌が作成できないという問題は発生しません。

一方、AACR2ではタイトルの情報源を「タイトルページ」としており、原則としてその他の情報源を認めていません。そのために、同じ規定を準用してしまうと、洋図書のシリーズタイトルが、出版慣行上タイトルページ以外の箇所

に表示されている場合が多いにもかかわらず、シリーズタイトルを親書誌のタイトルと見なせなくなってしまう、シリーズ典拠としての親書誌を作成できなくなってしまうという問題が発生します。

「抜刷集」に「ただし、・・・」以下、洋図書の親書誌のタイトルの情報源についての指針を追加したのは以上の理由からです。つまり、この文の主旨は、洋図書においてシリーズ典拠としての親書誌の情報源の範囲を、出版慣行を考慮し、タイトルページ以外の部分部分にまで拡大すること、そしてその範囲内であれば親書誌のタイトルとして採用できるということを述べることにあったとご理解ください。ただし、AACR2では用いられていない「標題紙」という語をここで用いたために、「標題紙」という語が洋図書においていかなる範囲を示すのかが必ずしも明確ではなく、この点で混乱を招いてしまったことについてはお詫びいたします。

そこで、洋図書の親書誌のタイトルの情報源については以下のようにすることにします。

タイトルページ、表紙、奥付の他、タイトルページに準じると考えられるすべての箇所(タイトルページの前後、副タイトルページ、シリーズタイトルページなど)。資料本文や本文に準じる部分(前書きや後書き)、広告・宣伝の頁、目次や索引の頁は含まない。

資料本文等を含まないとした理由は、書誌の作成や同定時に混乱を招かないよう、シリーズタイトルとしてより安定的に表示されているもののみを対象とすべきであろうという判断からです。

今後は以上の指針にしたがって作業をすすめてくださるよう、お願いします。

## 2. 洋雑誌の誌名変遷について

洋雑誌の誌名変遷について、ニュースレターNo. 37に掲載しましたが、関連する質問書が多数ありましたので、事例を紹介します。いずれも誌名変更とはみなさない例です。

(例1)

```
CRTDT:850716 RNWDT:19931115
GMD: SMD: YEAR:19-- 1992 CTRY:us TTLL:eng TXTL:eng ORGL:
PSTAT:d FREQ:q REGL:r TYPE:p
ISSN:00319554 LCCN:58045092 ULPN:P544000
TR:The Piano quarterly : a critique of piano literature
VLYR:-v. 40, no. 159 (fall 1992)
PUB:New York, N.Y. : The Piano Teachers Information Service , -1992
PHYS:
VT:AB:Piano q
VT:KT:The piano quarterly
VT:OH:Piano quarterly
NOTE:Description based on No. 66 (1968/69)
```

NOTE:Title varies slightly: Piano quarterly, no. 155 (fall 1991)-

- 冠詞の付加、削除あるいは変更は誌名変更とはみなしません。  
(AACR2R 21. 2A1 a)

(例2)

CRTDT:870425 RNWDT:19931115  
GMD: SMD: YEAR:1980 CENTRY:uk TTLL:eng TXTL: eng ORGL:  
PSTAT:c FREQ:b REGL:r TYPE:p  
ISSN:00076929 LCCN:82645619  
CODEN:IMSDS8  
TR:Industrial management + data systems  
VLYR:1980, no. 9 (Sept. 1980)-1989, no. 7 (1989) ; V. 90, no. 1 (1990)-  
PUB:Bradford, West Yorkshire : MCB Publications , 1980-  
PHYS:v. ; 30 cm  
VT:AB:Ind. manage. data syst  
VT:OH:Industrial management & data systems  
NOTE:Title varies slightly: 1983-: Industrial management & data systems

- 語の表現の変更は誌名変更とはみなしせん。(AACR2R 21. 2A1 a)

(例3)

CRTDT:870716 RNWDT:19930401  
GMD: SMD: YEAR:18-- CENTRY:gw TTLL:ger TXTL:ger ORGL:  
ISSN:00063304  
CODEN:BIZNAT ULPN:OB0840L  
TR:Biologisches Centralblatt  
VLYR:1. Bd. (1881/1882)-  
PUB:Erlangen : Verlag Eduard Besold  
PHYS:  
VT:OH:Biologisches Zentralblatt  
NOTE:Title varies slightly: Biologisches Zentralblatt, 37(1917)-

- 綴り方の変更は誌名変更とはみなしません。(AACR2R 21. 2A1 a)

(例4)

CRTDT:870430 RNWDT:19930721  
GMD: SMD: YEAR:1982 CENTRY:us TTLL:eng TXTL:eng ORGL:  
PSTAT:c FREQ:q REGL:x TYPE:p  
ISSN:02757540 LCCN:82644313  
CODEN:CHECDY  
TR:Chemistry in ecology  
VLYR:Vol. 1, no. 1 (Feb. 1982)-  
PUB:New York : Gordon and Breach Science Publishers , c1982-  
PHYS:  
VT:KT:Chemistry in ecology  
VT:OH:Chemistry and ecology  
NOTE:Title varies slightly: Chemistry and ecology (Vol.3-)

- 前置詞、接続詞の変更は誌名変更とはみなしません。(AACR2R 21. 2A1 a)

(例5)

CRTDT:850716 RNWDT:19921215  
GMD: SMD: YEAR:1971 CENTRY:ja TTLL:eng TXTL:eng ORGL:  
PSTAT:c FREQ:u REGL:u TYPE:m  
ISSN:03889394 LCCN:85010187 ULPN:OT0172D  
TR:Technical bulletin TARC / Tropical Agriculture Research Center,  
Ministry of Agriculture and Forestry  
VLYR:No. 1 (1971) -  
PUB:Tokyo : The Center , 1971-  
PHYS:v. ; 26 cm  
VT:OH:Technical bulletin of the Tropical Agriculture Research Center  
NOTE:Title varies slightly

- タイトル末尾における発行者名称の形(Form)の変更は誌名変更とはみなしません。  
(AACR2R 21. 2A1. c)

(例6)

CRTDT:870425 RNWDT:19930408  
GMD: SMD: YEAR:1978 CENTRY:ja TTLL:eng TXTL:eng ORGL:  
TXTL:eng ORGL: PSTAT:c FREQ:a REGL:r TYPE:p LCCN:80642716

TR:Annual reports on national life / Economic Planning Agency, Japanese Government  
VLYR:1978 (1978)-  
PUB:[Tokyo] : The Agency , [1978]-  
PHYS:v. : ill. ; 21 cm  
VT:OH:Annual report on the national life for fiscal ...  
NOTE:Title varies slightly

- 年代・数を示す指示子の変更は誌名変更とはみなしません。(AACR2R 21.2A1.b)

(例7)

CRTDT:850716 RNWDT:19921211  
GMD: SMD: YEAR:19-- CENTRY:ne TTLL:dut TXTL: ORGL:  
ISSN:00407585 LCCN:25019316  
CODEN:TIREES ULPN:R12161B  
TR:Tijdschrift voor rechtsgeschiedenis = Revue d'histoire du droit  
PUB:Groningen : J.B. Wolters' Uitgeversmaatschappij N.V.  
PHYS:  
VT:KT:Tijdschrift voor rechtsgeschiedenis  
VT:AB:Tijdschr. rechtsgeschiedenis  
VT:OH:The Legal history review  
NOTE:Description based on D.32(1964)  
NOTE:English parallel title added: The legal history review(d.41(1973)-)

- 並列標題の順序変更・追加は誌名変更とはみなしません。(AACR2R 21.2C)

(例8)

CRTDT:870425 RNWDT:19930611  
GMD: SMD: YEAR:1906 1979 CENTRY:uk TTLL:eng TXTL:eng ORGL:  
TR:Report of the annual conference of the Labour Party  
VLYR:6th (1906)-78th (1979)  
PUB:Westminster : The Labour Party , 1906-1979  
PHYS:  
VT:OH:Report of the ... annual conference  
VT:OH:Report of the ... annual conference of the Labour Party  
NOTE:Title varies slightly  
AL:\*Labour Party (Great Britain)

CRTDT:850716 RNWDT:19930426  
GMD: SMD: YEAR:1974 CENTRY:be TTLL:eng TXTL:eng ORGL:  
ISSN:02565846 LCCN:80649485 ULPN:B8412M0  
TR:Bulletin / Economic and Social Committee of the European Communities  
VLYR:1974 (1974)-  
PUB:Brussels : The Committee , 1974-  
PHYS:  
VT:OH:Bulletin of the Economic and Social Committee of the European Communities  
NOTE:Title varies slightly: Bulletin of the Economic and Social Committee of the European Communities, 1992-  
AL:Economic and Social Committee of the European Communities

- タイトル末尾における発行者名称の付加、削除は誌名変更とはみなしません。(AACR2R 21.2A1.c)

### 3. 製本用標題紙の取り扱いについて

- ニュースレターNo. 38 に掲載された決定事項に従うと、初号が標題紙がなく表紙しかない資料の場合、製本用標題紙によってTRを修正する必要があるのか。

この条項は非常に古い書誌群を対象に検討してきたものですので、新しい書誌群にこの条項を適用することは運用上問題があります。したがって、初号の主情報源(標題紙・表紙等)が確認できる書誌については、初号の主情報源を製本用標題紙より優先させます。製本

用標題紙に記載されたタイトルについては、必要があればNOTEに注記し、VT:OH:として記述してください。

#### 4. 洋雑誌書誌の注記について

- 注記の記載の順は、AACR2 の12.7B に従う必要があるのか。

このことについては特に今まで規定はありませんが、共同分担目録の特性上、AACR2 では最後に記述することになっている「記述の根拠とした号についての注記」を、記入要項では最初に例示しています。記載の順番については問わないこととし、慣例に従って記述してください。

- 刊行頻度について、FREQ: に記述するだけでは分かりにくいので、注記に記述した方がいいのではないか

注記には他の項目(フィールド)に記述できなかったことについて記述します。したがって、FREQ: に記述した同内容のことを注記に重ねて記述する必要はありません。刊行頻度の変更や「規則的不定期」な刊行のものについての注記は、必要に応じて記述してください。

- 注記は日本語で書いてはいけないのか。

学術雑誌総合目録欧文編全国調査データ記入要項に説明していますとおり、注記はローマ・アルファベットを使用し、英語で記述するようにお願いします。

ただし、予約雑誌については NOTE: 予約雑誌 と記録してください。

#### 5. 洋雑誌のタイトルにおける大文字使用法について

- タイトルの初語が冠詞である場合、その次の語は AACR2 A.4.D(本タイトルのもとに記入される著作)により大文字とするのか。

NACISISの総合目録において、書名標目の採用についての規定はありませんが、学総目冊子体において誌名を標目としてきた関連上、タイトルの初語が冠詞の場合、その次の語を大文字としています。

## IRからのREQUESTコマンドの機能追加

これまで運用しておりましたNACSIS-IRのREQUESTコマンドに、IRの検索を行わずに直接ILLのレコードを作成する機能を追加しました。

この機能を使用するには、TSSモードでコマンド「REQUEST」を指定します。

操作については、従来のREQUEST NOACCNと同様です。

以下に操作例を示します。

```
>> REQUEST
*** ENTER COPY OR LOAN(C/L) : C
*** ENTER AUTH, TITLE : Vlachy, V. "Electrolytes in micropores"
*** ENTER CITN : Australian journal of chemistry
*** ENTER VOL, PAGE, YEAR : 43(12), p.1961-1982, 1990
*** ENTER COMMENT :

***** (      1) *****
Vlachy, V. "Electrolytes in micropores"
Australian journal of chemistry
43(12), p.1961-1982, 1990
REQUEST(NOACCN)

***   1 RECORD (COPY) REQUEST -- OK?(YES/NO) : Y

*** YOUR REQUEST ( 1 ITEMS) BE ACCEPTED ON ILL ***
*** CONTINUE?(YES/NO) : N
>>
```

この操作で作成されたILLレコードは、BVPFYに「REQUEST(NOACCN)」がセットされます。

利用権限の付与や作成されたILLレコードの処理等は従来のREQUESTコマンドと同様です。すでにREQUESTの利用権限のあるIRのユーザIDに再度権限付与を行う必要はありません。

なお、REQUESTコマンドについては練習用(PRAC)は使用できません。



## BLDSCへの依頼機能に関する質問から

### 1. BLDSCの請求記号の扱い

BLDSCの請求記号(シェルフ・マーク)はどこに入力したらよいのか。

BLDSCの請求記号は、CMMNTフィールドではなく、CLNフィールドに入力してください。

### 2. 転送できない文字があった場合

依頼したレコードが、「転送できない文字が存在します」というコメントが付されて新着照会で戻ってきた。この場合、どのように処理したらよいのか。

以下のフィールドに漢字、制御文字、英文字に変換できないEXC文字等の、転送できない文字がある場合は、上記のようなコメントを付し、「新着照会」で報告します。転送できない文字を修正のうえ、ANSWERコマンドで回答してください。

対象フィールド: BIB, VLNO, PAGE, YEAR, ARTCL, CLN, BVRFY, CMMNT

これらのフィールド以外は英数文字に直す必要はありません。なお、ANSWER時にはCMMNTが必須のため、特別請求事項などを入力する必要がない場合は、当面の間CMMNTフィールドに「#」を入力してください。( [ニュースレター No.42, 44](#) )

### 3. 注文状況報告書からのILLレコードの特定

BLDSCから注文状況報告書が届いた。その指示にしたがって処理したいのだが、ILLシステムのレコードIDが表示されていないため、どのレコードを処理したらよいか分からない

現在、BLDSCから送付される注文状況報告書にはILLシステムのレコードID(LA番号)が表示されていません。原因を調査中ですが、当面の間お手元でILLレコードの特定ができない場合は、BLDSC側の注文番号(アルファベット3または5文字+5桁の数字)をご指示の上、専門・電子情報係までお問い合わせください。

### 4. BLDSCへの依頼の取り消し

注文状況報告書にある状況報告（リプライ・コード）の指示にしたがってBLDSCに対する依頼を取り消したい。この場合、現在「外部処理中」となっているレコードをどのように処理したらよいのか。

状況報告の内容によって、処理が異なります。

1. “NOT”等の状況報告で、依頼が謝絶された場合

「外部依頼中」のレコードに対してそのままCANCELコマンドを発行する。

2. “HW”等、処理待ちの状況報告のものについて依頼を取り消す場合

BLDSCに「依頼を取り消す」ためのデータを転送する必要があるので、以下の手順で処理します。

1. 取り消したいILL依頼レコードのCMMNTに「CANCEL」と入力して、CHASEコマンドを発行する。

ILLレコードの状態が「未処理」になります。

2. このILLレコードに基づき、翌業務日にセンターからBLDSCに「依頼を取り消す」ためのデータを転送します。

ILLレコードの状態が「外部依頼中」になります。

3. 後日BLDSCから送付される注文状況報告書の状況報告で依頼が取り消されたのを確認の上、1)と同様に「外部依頼中」のレコードに対してCANCELコマンドを発行する。

ILLレコードの状態が「CANCEL」になります。

なお、個別の状況報告の内容については代理店配付の資料をご覧ください。

## 「目録情報の基準運用細則」作成検討部会の審議内容

### 「目録情報の基準運用細則」作成検討部会 第8回打ち合わせ(調整作業班による)

日時：平成6年6月10日(金)13:30～17:00

#### 1. 今年度のスケジュールについて

「和図書書誌レコード」を中心に、引き続き作成作業を進めていくことので承された。

#### 2. 「和図書書誌レコード」について

2.2.1 「TR」部分について、原案をもとに意見交換を行い、項番の付与について、より細部まで付与したほうがよいとの意見が出された。審議結果をまとめた修正案を、次回の部会で再度検討することになった。

### 「目録情報の基準運用細則」作成検討部会 第9回打ち合わせ(調整作業班による)

日時：平成6年7月18日(月)13:30～17:00

#### 1. 「和図書書誌レコード」について

2.2.1 「TR」部分と2.2.2 「ED」部分について、項番を付与した原案をもとに審議を行った。目録規則に定められていることをどの程度細則に盛り込むべきかといった意見が出された。審議結果をまとめた修正案を各メンバーに送付し、再度検討を行うことになった。

2.2.3 「PUB」等の部分については、調整作業班内のメンバーの分担によって検討が行われており、それらについても、BBSで意見を寄せてもらうことになっている。